

医学部学生の「物語能力」に関する調査研究

【研究責任者】

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 総合社会医科学講座 総合内科学分野
講師 小比賀 美香子

【本学における研究分担者】

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 総合社会医科学講座 総合内科学分野
教授 大塚 文男

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座
教授 片岡 仁美

(1) 研究の背景及び目的

【背景】

医学はサイエンスとアートで成り立つとされ、欧米では Narrative Medicine や Whole Person Care などアートに着目した医療が実践されている。米国では「物語能力 (Narrative competency)」を医師がもつべき能力とし、その育成のための教育プログラムも確立している。一方、本邦の医学教育は、Evidence Based Medicine を中心としたサイエンスに重点が置かれており、アートに着目した教育はほとんど行われていない。また実際の医療現場において、特に医師は疾患の治療 (サイエンス) を優先する傾向にあり、全人的医療、全人的ケア (アート) が十分に実行されているとはいえない。

平成 29 年度より、医学部 6 年生対象の総合内科選択実習において (1 グループ 2 名が 4 週間実習する。5 グループの計 10 名参加予定。)、パラレルチャートを用いたナラティブ教育を導入し、実習中計 4 時間 (第 1 水曜、第 2 水曜の 2 時間ずつ) の、薬学部ゼミ学生と合同の「ナラティブ教育合同実習」もスタートすることとした。

【目的】

1. 医学部学生 (総合内科選択実習中の 6 年生) に対するインタビュー結果をもとに、医学部教育の中で、「物語能力」がどのように育成されるか、その過程を質的研究手法にて詳細に解析する。
2. 総合内科選択実習中の 6 年生と、薬学部ゼミ学生を対象とした、「ナラティブ教育合同実習」の教育効果および、学生への影響を明らかにする。
3. 総合内科選択実習中の 6 年生に対する、パラレルチャートを用いたナラティブ教育の教育効果および、学生への影響を明らかにする。

(2) 研究方法の概要

総合内科選択実習中の医学部学生に対するアンケート、インタビュー、レポートをもとに、医学部教育の中で、「物語能力」がどのように育成されるか、また選択実習中に行うナラティブ教育の教育効果、学生への影響について、量的および質的研究手法にて解析する。

(3) 研究のデザイン

岡山大学単独。質問紙、レポート、インタビュー結果を用いた観察研究。

(4) 研究対象者の選定方針

1) 選択基準

総合内科選択実習中の 6 年生と、「ナラティブ教育合同実習」に参加する薬学部ゼミ学生のうち、研究参加に同意したもの。

2) 除外基準

なし

(5) 予定する研究対象者数

40人（総合内科学生10人×3年=30人、薬学部学生3人×2年+4人×1年=10人）

(6) 評価の項目及び方法

1) 主要評価項目

（医学部学生）

- 医学部学生へのインタビュー内容
→医学部教育において物語能力がどのように育成されるのか。
物語能力育成における阻害因と促進因は何か。

2) 副次的評価項目

（医学部学生）

- 実習前後に行う、医学部学生へのアンケート
- 実習前後に評価する、医学部生のエンパシースケール
- パラレルチャート、およびディスカッション内容
→学生は患者の物語をどのように捉えているのか。
学生は患者の物語から何を感じ、考えるのか。

（薬学部ゼミ学生）

- 「ナラティブ教育合同実習」前後に行う、薬学部ゼミ生へのアンケート
- 薬学部ゼミ学生へのインタビュー内容
→医学部学生との合同実習で何を感じ、考えたか。

(7) 研究実施期間

2017年5月19日～2022年3月31日（研究対象者登録締切日：2019年9月1日）

(8) インフォームド・コンセントを受ける手続き

文書を用いて説明・同意を取得する

(9) 研究対象者等及びその関係者からの相談等への対応方法

責任者氏名：小比賀美香子（総合内科、講師）

連絡先：obika-m@cc.okayama-u.ac.jp